

# 「柏崎の水」

## 石黒（高柳） はなさか 花坂用水

去る7月15日、NPO法人日本自費出版ネットワークが主管する「2006年度日本自費出版文化賞」の授賞式が行われ、「地域文化部門賞」に「ブナ林の里歳時記 - 石黒の昔の暮らし -」が選ばれた。この本は、昔の石黒地域の暮らしの様子を次の世代に伝えたいとの思いから6年がかりで製作された力作で、昭和20年ごろの石黒の記録を中心に、昔話や方言集、集落図などが書かれている。また「石黒の昔の暮らし」としてインターネットでも公開され、誰でも閲覧することができる。(アドレスは下記)

この本の「伝説」の項目では、「花坂用水」と題して、黒姫山中腹の水穴口から湧き出る水を農業用水として利用する話が記されている。

『ミズアナグチの水は昔から一升口とよばれ出水の切り口が一升桝ほどであったという。「筥一本の水が出ていれば一反歩の田をしつけられる」といわれた時代であったから、ゆうに数十町歩の水田を潤すことのできる水量であった。』

「高柳町史 史料編」には「花坂用水を用い開田のこと」という文書が記載されている。これは寛政6年(1794)に、柏崎町の山田為太郎が石黒村と取り交わした花坂新田の開発計画であり、水穴の水を利用することや、干ばつに備えて溜め池を作る



石黒には「棚田とれーる」という舗装道がある。写真は板畑の棚田とれーるから大野方面を見たところ。中央に見えるのが板畑橋。



参考にした本  
「ブナ林の里 歳時記」石黒の昔の暮らし編集会 編  
「高柳町史(本文編・史料編)」高柳町史編集委員会 編  
「石黒の歴史」桑山省吾 著

ことなどを述べている。花坂新田が完成したのは享和3年(1803)。このころ作成されたと思われる花坂新田の絵図を「縁の館」で見ることができる。縁の館ではこのほかにも畳10畳分もの石黒村絵図など、石黒の貴重な歴史資料を展示している。

平成11年7月、「日本棚田100選」に、花坂の棚田が選ばれた。その理由として「この地区は地滑り指定地区であるが、耕作することにより未然に地滑りを防止している」ことが挙げられた。また、用水路などが集落の共同作業により維持管理されていることも評価されている。最近では、この棚田を撮影しようと多くの人が石黒の地を訪れるという。花坂の棚田の雄大な景観は、石黒の人々による過去から現在に亘る絶え間ない努力、その賜物といえる。

「石黒の昔の暮らし」ホームページ <http://www.geocities.jp/kounit>  
ブログ『「石黒の動植物」編集室から』 <http://blogs.yahoo.co.jp/kounit>  
「縁の館」見学申込先：田辺さん(電話43-2265) 縁の館は工事のため10月まで休館